

轉て 敬ぎょう

2
2020
Feb.

信のとびら

喜びを伝える

2月のご奉公のすすめ

2月のお寺の行事予定

令和2年受け持ち御講師一覧

12月のご奉公日誌

蓮華会・くんげ会合同御講

新年のご挨拶と新春の特別ご披露

日晨上人の思い出 その6

今年度のご奉公テーマ「助行のすすめ」

身近な人助け 佐藤応昇師

私のよろこび

御法様に支えられて

九死に一生を得る

後継者育成活動報告

こどもたちの会

お宝前のお供え物



佛立本旨講妙應寺

モデル：ルミちゃん
(大井大森教区)

喜びを伝える



お講は何のため

毎月奉修させていただき

講とは、亡くなった方々のご
回向や席主の祈願のためだけ
にするものではありません。ご

弘通の道場として多数の信者
が口唱を重ね、ご法門を聞き、
信心を増進させる場です。さ
らに、聴聞したご法門を教化
折伏の糧かてとして弘通ご奉公に
役立てることが望まれます。
その功德は計り知れないほど

大きなものとなるのですか
ら。

五十展ごじゅうてんでんずいき転随喜てんずいきの功德

お講参詣した信者は、伺つ
たご法門を他の人に伝えま
しょう。例えば、一人が十
人に伝えます。更にその十人
が十人ずつに伝えたとしたら
百人に結縁のご奉公ができる
のです。信心の喜びを伝える
ご奉公は、我々信者に最良の

功德をもたらします。これ
を「五十展ごじゅうてんでんずいき転随喜てんずいきの功德」と
いいます。教えを聞いて喜ん
だ人が他に伝え、さらに聞い
た人が次の人に伝える。それ
を繰り返し、やがて五十人目
に伝え聞いた人が随喜する功
徳のことを言います。五十番
目に聞いた人には十分な内容
が伝わらないかもしれませ
んが、それでも聞いて喜んだ功
徳は果てしなく大きいと説か

れています。

お教化を進める

明年度（令和二年四月～令和三年三月）のご奉公テーマは「教化」です。喜びの輪を広げ、やがて教化に繋がるようご奉公させて頂きましょう。ご法門やご利益談を聞いたら信者仲間に伝える練習をしましょう。伝える為に聞くと記憶にも残ります。何となく聞いているとすぐに忘れてしまうものです。

開導聖人のご教歌に、

へひろめんと

思ふ心のなき人は

きく法門も

そらぎきをする

とあります。ご法門は、何度でも聞く事が肝心です。ひとり聞き聞いたからそれで全てわかったというような簡単なものではありません。伝えひろめるために聞く気持ちがあれば、聞いた端から忘れることは無いでしょう。お講の帰り道、お寺参詣の帰り道、聞いたご法門を忘れていません

か？ 他に伝えるために聞くよう心掛けてください。

弘める心

弘める心を是非起こしましょう。そう心掛けることで、信心の深みや味が分かるようになるはず。そうすれば信心は一層増進して、大きな功德を積める人になります。自分一人が信心の妙味を分かればいいという考えではなく、世のため人のために信心させていただくという心をもつてご奉公に励ませていただきますように。

2月のご奉公のすすめ

今年度のご奉公テーマ「助行」

今月は、お祖師様ご誕生の月です。お祖師様が御題目を弘めて下さったお陰で多くの方々がご利益を体験し、そのご縁を頂いた我々も又同様にご利益を体

験しています。お祖師様への感謝の気持ちをどう実践させて頂くか家族で話し合い、報恩感謝の思いをすすめ合いましよう。

今月の「随喜轉教」

御宝前を生きています仏と敬い、出かける時も帰った時も一番にご挨拶する。毎日のお給仕や朝夕のお看経に励む喜び、他人の幸せを願う喜びの体験など

を家族にも伝えましよう。また、回向パンフレットを活用して、ご回向や塔婆建立をすすめるなどして随喜轉教のご奉公につとめましよう。

二月の「ご奉公のポイント」

一、れんげまつり

3月8日（日）午前10時半より本堂にて、高祖大士御命日総講に併せ、れんげまつりを開催します。日蓮聖人物語第三話の

スライド等を予定しています。家族を誘い、大勢で参加させて頂きましよう。

二、春季彼岸総回向

3月20日（金祝）春季彼岸総回向を10時半より本堂にて、引き続きバスで移動して12時半より事教院六角堂にて奉修させていただきます。お祖師様は、「化の功けのおの」に帰すの道理なれば亡者をとぶらうも我身の為なり。所詮亡者の浮沈は追善の有無に依る也。此等の理を思て自身も信心を催し、六親をも回向あるべし（十王讚歎抄）」とお示しです。

三、静岡聞信寺回参

3月29日（日）は、静岡聞信寺の門祖会回参です。当番参詣は第一地区です。同志寺院のご弘通発展の応援参詣です。他地区の方々にも声をかけ大勢でお参詣させて頂きましよう。

2月の寺内予定

1日～7日		開講本旨再興祈願朝参詣週間	
1日	⊕	開講本旨再興祈願総講	10時半
		運営会議	12時半
		財務委員会	13時半
2日	⊖	口唱会(第2地区、護法部)	9時半
		若い人の口唱会	10時半
5日	水	寒参詣終了(御礼参詣)	
8日	⊕	連合幹事会	9時半
		後続者育成連絡会	10時半
		評議委員会	11時
9日	⊖	高祖御降誕会総講(高祖大士御命日総講を併修)	10時半
		門祖会奉修費・御供米料、お花料、参詣人締切	
11日	火	信徒講習会①	9時半
15日	⊕	信徒講習会②	9時半
16日	⊖	門祖会無事奉修祈願朝参詣週間	
		三大会本堂大掃除(第二地区担当)	9時
17日	月	開導聖人御命日総講	10時半
22日	⊕	門祖会全体会議及び準備ご奉公	9時
23日	⊖	門祖会 第一座 第三地区、第一地区(千葉)、特別教区	10時
		第二座 第二地区、第一地区(渋谷港、都中里)、特別教区	11時半
		れんげまつり参詣人数報告締切	
24日	月	信徒講習会③	9時半
25日	火	正副教区長会 第一地区1階ホール、第二地区和室、第三地区2階ホール	9時半
29日	⊕	令和2年度地区・連合・教区・事務局役員申請締切日	
		本堂護持御有志申込締切	

特別教区								第三地区			第二地区			第一地区		連合 教区 受持御講師			
妙証会	岡山～広島～福岡	大阪	名古屋	長野	小田原	埼玉東	水戸・栃木	北海道中央	西部	豊島	杉並	多摩	かながわ	品川	目黒世田谷		千葉	都中里	渋谷港
									所沢 入間 練馬	板橋 川越 豊島	みたか なかの 杉並	多摩	かながわ かながわ 北	品川 大井 大森	世田谷 目黒		富里 千葉中央	都中里	渋谷港
根上信浄師	佐藤応昇師	水谷随歎師	根上信浄師	根緒泉溪師	座間随祥師	根上信浄師	神野照報師	糠谷信章師	根上信浄師	糠谷信章師	座間随祥師	神野照報師	佐藤応昇師	水谷随歎師	根緒泉溪師	糠谷信章師	糠谷信章師	根緒泉溪師	

令和二年受持御講師一覽

蓮華会・くんげ会合同御講

子どもたちの成長に驚く

12月8日に蓮華会・くんげ会合同お講が奉修されました。年に3回の合同お講では、子ども達の成長に驚かされます。

小さかった子が、お母さんの手に引かれながら、お布施のご挨拶をしてくれたり、大きく成長した子が、司会をしてくれたり。とても嬉しく思います。

今回の合同お講では、クリアファイルを使って、マスクケースを作りました。

今までいくつもの工作をしてきましたが、どれもみな、日常

の生活に役に立つものが多いので、楽しみに工作ができます。

令和元年には、若い家族が आए、新しい命も次々に誕生しています。赤ちゃんの内から合同お講にもお参詣して頂き、若い家族同志の親睦をはかり、これからも、子どもたちの成長を楽しみにして行きたいです。



① 先ずは本堂で記念撮影



② 2階ホールで工作



③ 熱心に工作



④ 長野教区からも参加

日随上人御百遠諱にあたって 12月13日御総講で御導師より



三世日随上人の当時、日教上人が関東のご弘通の土台を作って下さいましたが、明治45年に御遷化になります。そこで、関東ご弘通の一層の発展のため日随上人は東京第二支部を乗泉寺に作られました。大正七年、京都からの御巡教を頂いた時に、今の本堂のご本尊をご染筆くださって、それを私たちは代々護ってきました。

その後の大正9年に日随上人も御遷化になられてますので、それから数えると丁度百回忌ということです。われわれはおかげさまで百年を超えて佛立講の信心の伝統をまもり続けて来たという事になります。伝承されてきた御看經の仕方、ご利益のいただける信心というものをまた次に伝える役目を持っているのだという事を念頭に置いてこれからのご奉公をしてゆきましょう。

令和元年十二月行事報告

1日～7日		開講本旨再興祈願 朝参詣週間
1日	日	開講本旨再興祈願総講を午前10時30分より奉修
7日	土	運営会議を午前9時30分より開催
〃		門祖会本部会議を午前10時30分より開催
8日	日	口唱会を午前9時30分より奉修(担当文教部・第三地区)
〃		蓮華会・くんげ会合同御講を午前10時30分より奉修
〃		男性信徒御講申込締切
13日	金	高祖大士御命日総講を午前10時30分より奉修
14日	土	連合幹事会を午前9時30分より開催
〃		後継者育成連絡会を午前10時30分より開催
〃		六角堂初御看經参詣バス申込締切
〃		成人式申込締切
17日	火	開導聖人御命日総講を午前10時30分より奉修
19日	木	寒参詣御供養御奉公者締切(おにぎり・うどん)
22日	日	男性信徒御講を午前10時30分より奉修
25日	水	門祖聖人御命日総を午前10時30分より奉修
〃		正副教区長会を午後12時30分より開催
〃		御炭代・お鏡餅料奉納締切
〃		教講ご奉公納め
25日～31日		年末御礼朝参詣
31日	火	年末御礼御看經奉修

新年のごあいさつ

日晨上人・日尚上人から託されたご奉公

住職 水谷日在導師



皆様、新年おめでとござい
ます。

昨年お寺では、4月に日尚上

人御17回忌を奉修。12月には佛

立三世講有日随上人の百遠諱

のお焼香をさせていただきまし

た。妙應寺本堂に奉安されてい

る大御本尊には「大正七年十二

月中旬佛立三世講有日随」と

いう署名があります。東京第

二支部として独立し新たな活動

を開始する乗泉寺を力強く後押

しして下さった御導師です。百

年に亘って伝承されてきた歴史

の重みと妙法口唱の信心と有難

さを改めて見つめなおしましよ

う。

さて、本年八月には、日晨上

人の御37回忌をお迎えいたしま

す。昭和59年の御遷化ですが、

現在のご奉公の形はほぼ日晨上

人の御教導によるものです。こ

れまでと変わらず、現証御利益

のいただける御信心をこれから

先に向かつて、三世代四世代と

伝えてゆくことが日晨上人、日

尚上人から私たちに託されたご

奉公です。

総誓願の趣旨にのっとり、塔

婆建立や応援祈願という信者相

互の協力関係を一層充実させ

て、本年のご奉公を実りあるも

のにしてゆきましよう。

新年のご挨拶、新春の特別ご披露の全文はホームページでお読みください。



御導師



六角堂初御看経



元旦会

新春の特別ご披露 から ㊦

日晨上人御37回忌について

副住職 水谷随歎師

2
(木)

日晨上人は、明治32年10月26日東京府麻布区龍土町で誕生されました。開導嗣法第四世日教上人より「清長」と名前を頂き十六歳にて得道されました。

早くも25歳の時には乗泉寺住職に就任。それ以後、麻布乗泉寺や世田谷別院の開筵式をつとめました。また、弟子の育成にも力を入れ、東海から北海道までの弘通発展に尽力されました。

終戦後の昭和22年3月、法華宗より本門佛立宗として一宗独立を果たし、25年5月に渋谷に乗泉寺を移されました。その後37年10月には、開導嗣法第十五

世講有位を継承、41年講有退任、50年に乗泉寺住職退任され、弟子である日尚上人に後任住職を任されました。退任後も、高祖七百回御遠忌や新宗制の制定等数々のご奉公に力を注がれ、昭和59年8月31日ご遷化されました。

本年8月に大恩ある日晨上人の御37回忌を挙行致します。我々信徒一同、日晨上人のお徳をお偲びして今後のご弘通ご奉公に励みましよう。佛立本旨講の発展こそ先師上人への報恩ご奉公です。多くの方を参詣将引し、盛大な式にさせて頂きましよう。



水魚会



地区長



責任役員



事務局長

御題目を唱える喜びを伝えるお教化を

根緒泉溪師



昨年はお助行、そして今年の4月からの新年度のご奉公のテーマは、お教化のご奉公となります。

このお教化のご奉公とは、人に御題目のご本尊を御奉安させて頂き、御題目口唱の御信心をさせて頂くよう、お勧めするご奉公を言います。

生きてゆく上での様々な苦勞が際限なく存在するものであります。その為に、こういった苦しみの数々を乗り越えて行くようにと、仏様は、上行所伝の御

初燈明料と本堂護持御有志

神野照報師



初灯明料は、佛立本旨講発展のため、同志寺院の交流や特別

教区、新会場の充実等に役立っています。本堂護持への御有志



埼玉東教区の皆さん



の皆さん

祝杯式 1月3日 11:30 ~

新春の特別ご披露 から

は、正しい御信心を守り弘める為の緒費用や、佛立本旨講の根本道場の維持、又修繕等に使用させて頂いています。

これらの御有志は、御信心で一番大事な布施行と云う、施しの修行です。この行には二通りあり、一つは法施と言つて、日々のお寺参詣に励み、我も唱え他にも勧めて妙法を伝え弘める、身体を使つての法城護持で

寒参詣のすすめ

日蓮聖人が佐渡の酷寒に耐え、妙法の真実を証明しようとなさつたご苦心を偲んで、寒中の一ヶ月間を寒さに負けずに参詣に励もうという報恩ご奉公として、日歡上人が寒参詣を始め

す。二つには財施と言つて、物質的な品物や金品で法城を外護する、今回の初灯明料や本堂護持御有志の事です。この貴い心の初灯明料や、法城護持御有志は、日尚上人が生涯かけて開講本旨再興を誓い、創設した仏立本旨講ご弘通発展の為、後世に正しい教えが絶える事無く伝え弘める為に、大切に使用させて頂いています。

糠谷信章師



られました。

この寒参詣が非常な成功をおさめ『それ以来、もう御信者も楽しみにする、私も楽しみとすると云うような具合であつたので、益々益々栄えるようになって

新春の特別ご披露の全文はホームページでお読みください。



水戸教区の皆さん



長野教区の皆さん



栃木教区の皆さん

多摩教区

年末年始の特別ご披露

たのであります。』と、日歎上人は、懐旧談に述べておられます。

寒参詣には、歴代上人方の弘通の思いが込められています。

令和元年を振り返って

年末のご挨拶より

根緒泉溪師



今年行なってきた諸ご奉公を振り返ってみると、4月より、開講本旨再興をめざし、本年度総誓願が変わりました。応援祈願によって、菩薩の心を持った信者になること。また敬いの心、裏表のない人物に育てるために、御宝前のお給仕を家族にも、協力を呼び掛けて行くと言うのが総誓願の心です。

「今年行なってきた諸ご奉公を振り返ってみると、4月より、開講本旨再興をめざし、本年度総誓願が変わりました。応援祈願によって、菩薩の心を持った信者になること。また敬いの心、裏表のない人物に育てるために、御宝前のお給仕を家族にも、協力を呼び掛けて行くと言うのが総誓願の心です。」

4月20日には、開講本旨再興日尚上人の御17回忌法要が営まれました。記念品として、開導聖人ご在世時のご信者が頂いたご利益の数々をまとめた「以

この10月には「ご回向は幸せのブーメラン」と言うパンフレットが出来ました。ご回向の功德とお塔婆を建てる功德は、生きてゆく上での、日常生活の問題を解決して、必ず苦難を乗り越えてゆくことが、出来るというところが、記載されています。まだこのご回向や御塔婆建立の有難い事を知らない方々にもお伝えして、信心増進、信行相続を促進して下さい。

この思いを真摯に受け取り、妙應寺の弘通発展のため、全信徒協力して令和二年の寒参詣を盛り上げましょう。

信得入」が配布されました。いつも手元に置いてご奉公に、役立ててほしいのです。



第一地区と長野教区



第二地区と栃木 / 水戸教区



第三地区

教講初顔合わせ 1月3日 12:30 ~

日出上人の思い出

信章師 樋谷



日養上人御90歳記念 花押連合水野甲寅にて S55.5.15

私が入寺したころ御講尊・日晨上人は、御年80歳になられていました。だいぶ足が弱くなられ、本堂ご出座の時は隨身が手を貸し、甲御講の移動はなるべくその家の玄関の近くまで車を寄せ、車の乗り降りでお怪我をしないようにと手を出す等、教講皆が当たり前のように恩師を

氣遣うお給仕を、形の上から実践していただきました。半年後、私は得度を許され、数年後隨身のお役を仰せつかり、隨身ご奉公のいろはを先輩か

ら教えて頂きました。

お供して歩く時は、ご講尊の左側に立ち右腕を「く」の字に出してそこにつかまって頂き、歩調を合わせて歩きます。

甲御講のお席が二階の部屋の時は、ご自分で手すりをつかまり階段を登りますが、最後登りきる時は手すりが無く先輩が上から引つ張り私が下から支えます。遠慮して息が合わないと登れません。

末寺へ御巡教に一度お供させて頂きました。その時は、御内室が一緒に行ってお着替えなど身の回りの事はして下さいましたが、足袋をはくお手伝いは私がさせて頂きました。足の甲にむくみがあり驚いて上手くいかず、焦って時間がかかってしま

いました。

この様にお体はさぞかし辛かったでしょうに、ご弘通の為に押しご奉公下さったに違いありません。

また京都の修学校一年目が、石岡日養上人御講有最後の年でした。日養上人は、退山式のご法宅に師の日晨上人を開百法衣に着替えて迎え正座してのご挨拶でした。

退山式ご出座後日晨上人は、山門を出て行く日養上人を回廊の先まで行き見送られ、すぐにお着替えに戻られるかと思いきや、車椅子を押しして本堂御宝前御法門台横までと言われ、そこで深く頭を下げ暫くお願いしておられました。忘れられない一日となりました。

日晨上人の思い出話、思い出のお写真などをお寄せください。今年8月の三十七回忌法要に向かって準備を進めております。

御法様に支えられて

品川教区 Sさん

私の母が佛立本旨講のご信心に入っただのは、今から70年前です。昭和30年私が生まれた頃、父は自分の会社を経営していま

した。しかし、昭和35年頃会社の経営がうまくいかず会社が倒産してしまいました。父は多額の借金を抱えたまま、個人でお店を続けることになりました。

昭和45年、父は70歳まで働きましたが脳梗塞で倒れ仕事をすることが出来なくなりました。借金がまだ残っていて母が一人で昼夜働いて、借金の返済、父の介護、当時中学3年の私と小学校6年生の弟を育ててくれました。昭和47年父の認知症がすすみ、病院の介護施設に入院

することになりました。さらに生活は苦しくなっていきました。母の人生で一番厳しくつらい時期だったと思います。母の心を支えたものは、いったい何だったんでしょうか？

もちろん本人の強い意志、家族への愛情、周りの人たちからの励ましもあったと思います。でも、母の心の中にあつたものは、信じる心でご祈願をかけお題目を唱えること、そして、そして自分が今できることを精いっぱいこうと、そうすれば何とかなると思っていたそうです。そんな矢先、父の入院している病院から、この病院で働きませんかと声をかけていただきました。母

の状況をわかってくれた病院の院長先生が、ありがたい気配りをしてくれたのです。おかげさまで、母は、父の介護をしながら新しい仕事に就くことが出来ました。

その当時、介護施設がある病院はめずらしく、母の勤めた病院は大変業績を伸ばして大きく発展していきました。それと同時に母の給料とボーナスも右肩上がりに増えて生活も少しずつ楽になっていきました。そして、私達兄弟も無事に高校を卒業することが出来ました。それから借金も返済して普通の生活がおくれるようになりました。

今、その当時のことを思えば、毎日が何事もなく平凡に過ごしていけることがいかに大切で幸せであるのか、つくづく感じら

私のよろこび

九死に一生を得る

れます。母は今でも、お題目を唱えることご祈願をかけ頑張っていることが元気の源であり、気持ちの寄りどころだと話して

おります。

そんな私達の母を、これからも皆様よろしくお願いいたします。

水戸教区 Tさん

私共の次女A子の夫、I君がこの度の台風19号で九死に一生を得る体験をしましたのでご報告をさせていただきます。

10月12日は超大型台風19号が上陸して各地で甚大な被害が出ておりました。I君は、福島県K村の村役場に勤めているため、その夜は公用車で村内を巡回しているところ、急にハンドルを取られ、車が流されているのを感じました。いつもならその場所は、道路の左右は田んぼ

になっているのに、その時は一面川のようになっていたそうです。

車で流されながら、ドアは開かないと思い、窓を開けてみると開いたので、そこから車の屋根に上り、水の中に飛び込んだそうです。先輩の車が来ていたので、すぐ消防を呼び、久幸君にライトを当ててくれたので、それを頼りに岸まで泳いで助かったそうです。

先輩はこの時、目の前で流されていくK君の車を見て「Kは

死んだ」と思ったそうです。しかし、水の中からK君のヘルメットが浮き出てきたので、必死にライトを当ててくれたそうです。岸に着くとしばらく震えが止まらなかったそうです。

本人もそうですが、そばにいた先輩も普通では考えられない体験を目の当たりにしたようでした。ずぶ濡れで自宅に戻り、お風呂に入って、また役場に戻ったそうです。A子も驚き、私共に連絡してきました。話を聞き「これは、大変な災難除滅のお計らいを頂いたね」と話し合いました。K君も、そう受け取られるようこれからも信行継続に励んでまいります。

「あきらめないですがれば」

大井大森教区 Wさん

大井大森教区で後続者育成助行が行われました。13名のお参詣でした。88歳の席主はいつもお元気で明るく喜んで朝参詣されています。先日体調を崩され、なんと、20年ぶりに通院されたようですが、気を付けながら、それでも朝参詣に頑張っています。

おしゃっていました。小学生のひ孫も遊びに来るとお灯かりを点け手をあわせてくれます。先

日未熟児で生まれ保育器に2ヶ月いたひ孫も、心配しましたが、無事に育ち12月8日初参詣しますとの事で、先々が楽しみな沢村家のお話が聞けて嬉しく明るいお助行になりました。

絆を深める

男子信徒御講を奉修

先日ご信心に反発していた石垣島にいる長女がこちらに来た時「私も年を取ったら、お母さんのようにやりたい」と言ってみたりしましたが、嬉しかったです。「やかん信心」でなく「鉄瓶」のようにゆっくり冷めにくい信者になって欲しいと明るく

12月22日(日)に50名が願主となつて第2回目の男性信徒御講が奉修されました。女性の

ることができました。今後は男性信徒御講が各地区において毎月の常講として定着する事を目標にし、お助行を中心とした活動に取り組んでまいります。また、10月に聞信寺との交流助行を行いました。令和2年には妙應寺、聞泉寺、聞信寺の3寺院合同交流助行を開催する予定です。皆様の応援参詣をよろしくお願い致します。



方々も願主に加わって頂き、ご家族の応援参詣者なども含めて大勢で奉修す

身近な人助け

佐藤 忠昇 師

今年担当したSさんの話をさせていただきます。

Sさんは今年の初め、Mさんが怪我で入院をされた時、度々見舞いに行かれ、動け、ない水野さんの身の回りの世話をされ、入院先の病院から施設に入られた時にも、色々な手続きを水野さんに代わってしてあげ、施設に入ってから転教を届けたり、お寺に行けない水野さんに代わって御回向やお塔婆をあげに行ってください、先日は御導師と一緒にMさんを連れて小田原までお助行に行ってくださいました。

Sさん自身も大変忙しい中、嫌な顔1つせず笑顔でご奉公されている姿には頭が下がる思いです。

お互い御信者は人助けの思い、菩薩の心を忘れずに日々御奉公に励みたいものです。

ともすると自分のことだけで精一杯になり、人の事など構ってられない、そんな気持ちになってしまう事もあるかもしれません。

ですが自分自身の幸せというもの、自分一人だけで得られる物ではないのです。

人のためを思ってさせていた



だくお助行が巡り巡って功德となつて我が身に帰ってくるのです。

我が身の幸のためにも、菩薩行である人助けの修行であるお助行に励まさせて頂きましょう。

12月29日に応昇師を中心に新年のお供えづくりが行われました。(次ページ下段へ)





ご奉公 点描

新年の御宝前を飾るお供え餅をつくるご奉公が昨年暮れに、応昇師を中心に、教講及び水魚会のみなさんのご協力で行われました。

★こどもたちの会★

「ごほうぜん ぞや もの 御宝前のお供え物」



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、4月の日尚上人御十七回忌奉修初め諸行事を、無事奉修させて頂きました。

今年は8月に日晨上人御三十七回忌をお迎えます。

さて、この地に移り5年目を迎えます。「佛立本旨講弘通発展開講本旨再興」「開講本旨再興日尚上人報恩御奉公成就」を実践させて頂き「佛立本旨講妙應寺弘通発展」を皆様とともに御奉公させて頂きましよう。

本年もよろしく願います。本日はお参詣誠にありがとうございます。



1月3日祝杯式にて 事務局長 山本久男

轉教

令和2年2月1日発行 第21巻第2号 通算240号
編集兼発行人 山本久男
発行所 宗教法人 佛立本旨講 妙應寺
〒113-0021 東京都文京区本駒込6-6-11
TEL 03-5319-3490 FAX 03-5319-3491



<http://myooji.com>



info@myooji.com

題 字：水谷日尚上人